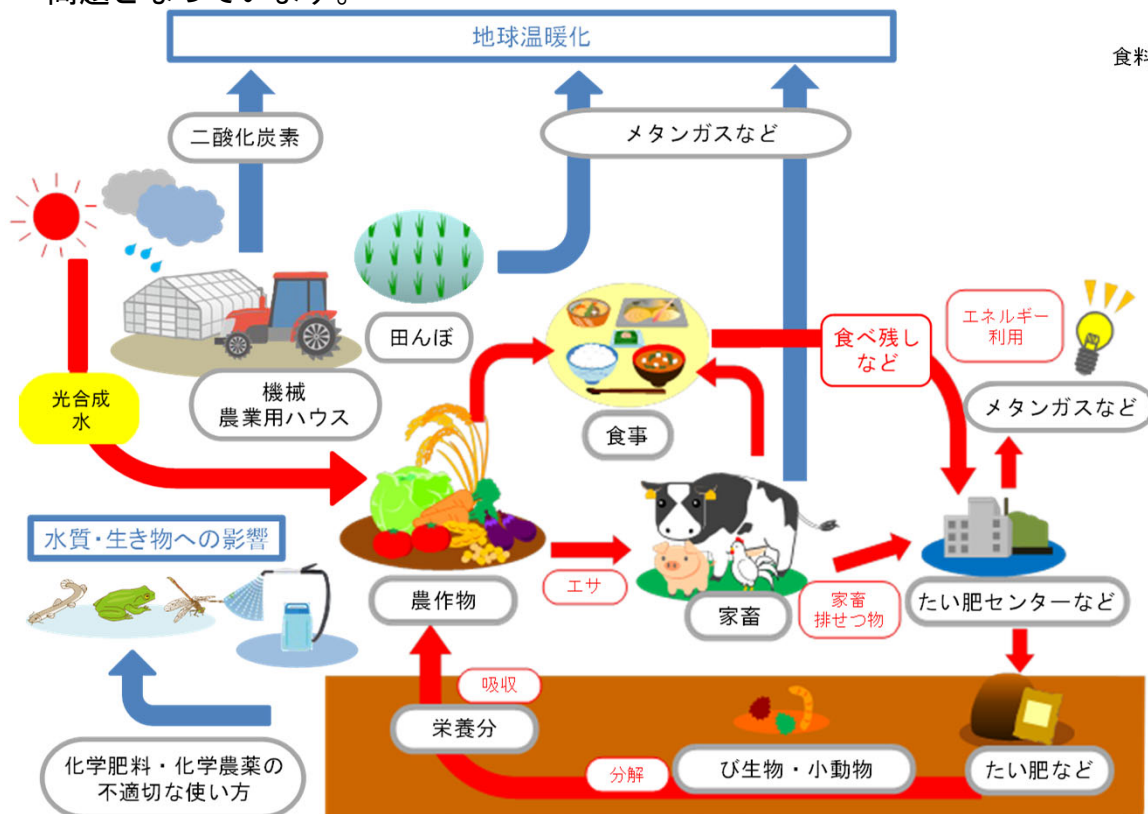


農林水産業は環境に どう関わっているのか調べてみよう！

農林水産業は、環境にどう関わっているのかな？

農林水産業は、さまざまな生き物が生きていくために重要な役割を果たしています。また、食べ残しや家畜排せつ物などは、たい肥やエネルギーなどに使うことができます。一方で、化学肥料や化学農薬の不適切な使い方による生き物や水質などの環境への影響も問題となっています。



【関連ページ】
食料・農業・農村白書
第5章第1節



食品ロスを減らすためにできることって何だろう？

本来食べられるのに捨てられている食品の量は、日本人1人あたり1年間に約38kgです。これは、毎日おにぎり1個分のご飯の量に近い量を捨てていることになります。

食品ロスを減らすためには、家で食べ残しや食品の使い忘れをしないようにするだけでなく、食べ物を買うお店、食べるお店でも食品ロスを減らすことを意識することが大切です。

対策の例

(例1) 「てまえどり」の呼びかけ

すぐに食べる場合には、商品の棚の手前にある商品を選びましょう。

(例2) 「食べきり」「持ち帰り」の呼びかけ

お店で食べる時には、食べきれる量を注文しましょう。食べきれなかったら、安全に持ち帰れるものをお店の人と相談して、持ち帰って食べましょう。



【関連ページ】
食料・農業・農村白書
第5章第4節



「消費期限」は安全に食べられる期限のことで、それを過ぎたら食べない方がいいよ。一方、「賞味期限」はおいしく食べられる期限のことだよ。ふたつのちがいをしっかり覚えて、おいしく食べよう！





日本では、「みどりの食料システム戦略」を作り、農林水産物や食品の生産に使う資材・エネルギーの調達から生産、加工・流通、消費までの取組を、環境にやさしいものに変えていこうとしています。

温室効果ガスを減らす取組

農林水産業から排出される温室効果ガス（二酸化炭素、メタンガスなど）を減らすために、農業用機械を電気や水素で動かす技術、メタンを減らす家畜の飼育技術、少ない肥料で生産できる小麦の品種開発などに取り組んでいます。

農業でも、機械や農業用ハウスで燃料を使うよね。
牛のゲップや田んぼから出るメタンも温室効果ガスになるんだ。



有機農業への取組

有機農業は化学肥料や化学農薬などを使用せず、環境に負担をかけないように行う農業のやり方です。日本で環境にやさしい農業を実現するため、有機農業の取組を広げていくことが大切です。

有機農業だと、収穫できる量が減ったり手間がかかったりして、農産物や食品の価格が高くなる場合もあるんだ。でも、有機農業を上手に行くと、生き物が増えたり、捨てていた資源を有効に使えたりして、ふつうの農業のやり方よりも環境にやさしくすることができるんだよ。



有機農産物を使った給食

資料：東京都内の一部区立小中学校

さまざまな生き物と共存する取組

農林水産業が行われることで維持されている生態系も存在します。例えば、水田や水路は湿地の代わりになり、メダカやカエルなどが生きる場所となります。

一方で、農地や水路の整備、不適切に使われた化学肥料や化学農薬などが、生き物のすみかに悪い影響をもたらす場合もあります。



田んぼで卵を産む魚の移動を助ける水田魚道

米や野菜、果物などが環境にやさしい方法で作られていることをわかりやすく表示するラベルに「みえるらべる」があります。どのくらい温室効果ガスを減らすことにつながっているか、生物多様性を守るための取組が行われているかが星の数で表示されます。



「みえるらべる」

【関連ページ】
食料・農業・農村白書
第5章第2節



【関連ページ】
食料・農業・農村白書
第5章第3節

